# 『吾輩は猫である』下篇自序

夏目漱石

青空文庫

「猫」の下巻を活字に植えて見たら頁(ページ)が足りないから、もう少し書き足してくれと云う。書肆(しょし)は「猫」を以(もっ)て伸縮自在と心得て居るらしい。いくら猫でも一旦(いったんかめ)甕へ落ちて往生した以上は、そう安っぽく復活が出来る訳のものではない。頁が足らんからと云うて、おいそれと甕(かめ)から這(は)い上る様では猫の沽券(こけん)にも関わる事だから是丈(これだけ)は御免蒙(ごめんこうむ)ることに致した。

「猫」の甕へ落ちる時分は、漱石先生は、巻中の主人公苦沙弥先生と同じく教師であった。甕へ落ちてから何カ月経(た)ったか大往生を遂げた猫は固(もと)より知る筈(はず)がない。然し此序をかく今日の漱石先生は既に教師ではなくなった。主人苦沙弥先生も今頃は休職か、免職になったかも知れぬ。世の中は猫の目玉の様にぐるぐる廻転している。僅(わず)か数カ月のうちに往生するのも出来る。月給を棒に振るものも出来る。暮も過ぎ正月も過ぎ、花も散って、また若葉の時節となった。是(これ)からどの位廻転するかわからない、只長(ただこし)えに変らぬものは甕の中の猫の中の眼玉の中の瞳(ひとみ)だけである。

明治四十年五月

# 青空文庫情報

底本：「筑摩全集類聚版　夏目漱石全集第十巻」筑摩書房
　　1972（昭和47）年1月10日第1刷発行
入力：Nana ohbe
校正：米田進
2002年4月27日作成
2007年7月20日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 『吾輩は猫である』下篇自序

夏目漱石

２０２０年　７月１７日　初版


## 奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　http://aozora.xisang.top/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙



青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/